

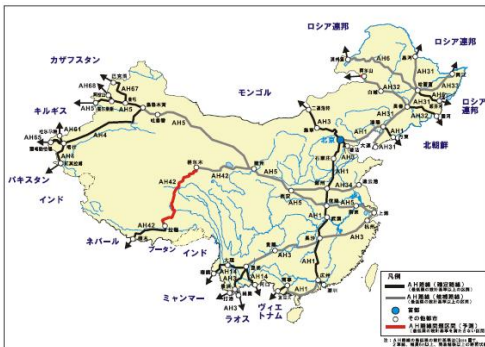
臨港道路整備計画

臨港道路は、背後圏物流の効率化による港湾の国際競争力の強化のみならず、港湾交通と市街地交通の分離による都市環境の改善に寄与する重要な港湾施設です。したがって、臨港道路は、地形・気象・海象などの自然条件や港湾とその背後地域の交通状況を考慮して、通行する車両が安全で円滑に利用できるよう計画される必要があります。また、臨港道路は、一般に物流系車両が多くなるため大型車の交通量が多く、心頭間を連絡するための橋梁や海底トンネル区間を必要とするため、その事業は規模が大きくなります。そのため、港湾地域と背後都市の交通環境について、現況と将来を適切に見通した臨港道路整備計画の検討が必要です。



1 「国際海上貨物の背後輸送ネットワークに関する調査業務」が国土技術政策総合研究所長表彰を受賞

弊社は、平成 17 年度に国土交通省国土技術政策総合研究所長より優秀技術者表彰を頂きました。この業務は、我が国の国際物流に大きな位置を占める国際海上コンテナの効率的な陸上輸送を目的として、①首都圏を対象とした国際海上コンテナ流動状況の現況把握、②全国道路ネットワークに基づく国際海上コンテナ輸送経路のボトルネック



評価、③国内では陸上輸送が困難だった 45ft コンテナ等の国際海上コンテナの利用可能性の検討、④アジア地域での国際海上コンテナの利用可能ネットワークの検討などを行ったものです。弊社では、このような研究業務に取り組み、それらを通じて得られた技術を多くの臨港道路整備計画検討業務に活かしています。



2 京浜臨海部都市再生における臨港道路の検討



京浜臨海地域は、重厚長大産業の一大集積地として、我が国経済を牽引してきました。この地域は、優れた港湾機能、首都圏という巨大な後背地、再拡張・国際化が予定されている羽田空港への近接性、という陸海空の好立地にあります。この条件を生かした新しい産業地域としての再生が期待されています。

弊社は、この京浜臨海部都市再生予定地域の交通量の予測に関して、物流系車両の特性を考慮して、一般道路とは異なる手法や指標を用いる等の創意工夫のもと業務を実施しております。

3 計画策定のためのコンサルティング技術の豊富な蓄積

● 港湾交通の分析・推計

港湾交通は、大型車の利用が多い他、最終消費地へ向かう際、保管場所を経由するなど、一般交通にはない特性を持っています。臨港道路の計画を行うに当たっては、港湾交通の特性を十分に反映した交通量推計や解析を行っています。

● 道路法と異なる道路構造

臨港道路は、道路法の道路ではなく、大型車の利用が多く車両の集中率が高いという特性があります。道路幅員の構成などでも道路構造令とは異なる検討が必要となります。

● GISの活用

地理情報システム（GIS）を活用し、臨港道路の整備効果などを、わかりやすく提示します。

4 関連業務実績

- ・国際海上貨物の背後輸送ネットワークに関する調査業務 国土交通省 国土技術政策総合研究所【国総研所長表彰】
- ・港湾貨物の背後輸送機関・経路と積出積卸港湾の選択に関する調査 国土交通省 国土技術政策総合研究所
- ・京浜臨海部幹線道路整備計画検討調査 (財) 港湾空間高度化環境研究センター
- ・大都市圏臨海部再生に係る基盤整備検討に関する検討補助調査 (財) 港湾空間高度化環境研究センター
- ・金沢港における交通施設のあり方検討調査 (社) 日本港湾協会
- ・港湾修築工事 神奈川県小田原土木事務所
- ・県単港湾調査 (木更津港商港機能予測基礎調査) 委託 千葉県 土木部



セントラルコンサルタント株式会社

<http://www.central-con.co.jp>

お問い合わせ先：東京事業本部 環境交通部 交通グループ